

令和8年度



園だより 7月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標 “しあわせいっぱいの子供園”

○もりもりそだつげんきなからだ ○たいせつななかまとじぶん ○かんじるこころとあたま

わくわくランド、大成功！

主任教諭 年長組担任 伊藤 優香

年長ぞう組は、5月に遠足で井の頭自然文化園に行きました。友達と一緒に動物を見たり、スポーツランドの乗り物に乗ったりする遠足は学級みんなで経験できる、とても貴重な共通体験です。その共通体験を基に自分たちが楽しかったことをくま組やうさぎ組にも伝えようと、みんなでわくわくランドをすることになりました。昨年度の年長さんに招待してもらったわくわくランドを思い出す子もいました。

わくわくランドは、昨日、今日でできるわけではありません。2～5人のグループに分かれて、どんなことをしたいかを相談することから始まりました。必要なものやつくりたいもの、役割を考えて、準備を進めました。

はじめはなかなかみんなのめあてや、みんなで進める意識がもてず、一人で勝手に色を塗ったり、途中で抜け出したりすることもありました。それでも少しずつ考えたことが形になってくると嬉しくて、更に進めたいと感じるようになり、わくわくランドの完成を心待ちにするようになりました。

準備は進めてきたけれど、本当にお客さんが来た時には何が必要なのだろう…。

そこで、それぞれのグループで考えた役割分担を実際に行いながら、ぞう組だけで遊んでみることにしました。

すると、「看板が見えなくてスタンプを押す場所が分からなかった」「すごく忙しかった」など、ただ「遊んで楽しい」だけでなく、お客さんを迎えるために必要な気付きが子どもたちから出てきました。気付きのあることは、わくわくランドがより楽しくなるためにとても大切です。気付いたことをできる限り、修正してわくわくランド当日を迎えました。

当日はくま組、うさぎ組を迎えて、自分のお店の呼び込みをしたり、遊び方を教えたり、乗り物を動かしたりするなど自分の役割に一生懸命取り組みました。自分よりも小さな子に優しく関わろうとする姿が頼もしかったです。「ここまでつくるの大変だった」と言いながらも、子どもたちの顔は満足感や達成感に満ち溢れていました。「わくわくランド、大成功！」

わくわくランドを通して自分たちでイメージしたことが実現する楽しさや、友達と協力すると一人ではできない大きなものをつくれること、学級みんなで大きなめあてに向かう楽しさを感じることができました。このような経験は、子どもたちをもっともっと大きくしていきます。

【7月の保育】

年少うさぎ組

6月は、雨の日の雰囲気を感じながら遊んだり、自分だけの傘をつかって遊んだりすることを楽しんできました。また、砂場では水を使って遊び、砂や泥の感触を味わいながら、解放的に遊ぶ心地よさや楽しさを感じています。

今月はプール遊びや水遊びで、一人ひとりのペースに合わせて水に触れたり、水の冷たさや気持ちよさを感じたりしながら遊ぶ楽しさが感じられるようにします。

星や七夕に関する遊びや製作を通して七夕の雰囲気を感じ、伝統行事へ親しみをもてるようにします。



年長ぞう組

わくわくランドでは、グループごとに遊びに必要なものをつくり、友達と一緒に遊びを進め、めあてを実現する楽しさを味わいました。そう組みんなで大きなめあてに向かって取り組んでいることが分かり、自分たちの力でやり遂げた満足感を味わうことができました。

水遊び、プール遊びも始まりました。水の冷たさや心地よさを感じて水に親しんだり、自分なりのめあてをもって取り組んだりできるように支えていきます。また、みんなで安全に遊ぶための約束を守ったり、身支度を自分で進めたりすることなども丁寧に指導していきます。

七夕に向けての製作では、はさみやのりを使って丁寧につくったり、できあがりを考えながらつくり、思い思いに色の並べ方やデザインを工夫することを楽しんだりできるようにします。

年中くま組

大雨の翌日に、自分の傘を絵の具でつくりました。できた傘を持って園庭にお散歩へ行き、タイヤやフープを水たまりなどに見立てて遊びました。傘指導では、傘の開閉の仕方などの約束を知り、傘を持って園庭を散歩し、シャワーで雨を降らせると、傘に落ちる雨音を感じていました。

今月は七夕の由来を知り、伝統行事に親しめるようにします。七夕飾りの製作では願いを込めて丁寧に作り、飾った時の色合いや風に揺れる様子の美しさを感じたりします。

暑い日にはプール・水遊びをします。子どもたち自身も安全に気を付けられるようにし、水にたっぷり触れる気持ちよさ、水の中で動いたり浮いたりする感覚の面白さを味わえるようにします。

